

## 第二章 家族（後半）

## 母権制から父権制へ

小峯（幹）…前半を簡単に振り返ります。母権制の時代は、粗末な家屋や衣類、調理器具などで食料はその日その日で獲得していました。その後、家畜を飼育し繁殖させ、乳製品や肉などを豊富に共有できる富（財産）を持つようになります。家畜の飼育や繁殖は男性の仕事で男性の財産になりました。その財産の増加に比例して男性が優位になり、母権制を覆そうとする衝動を生み出します。

母権制から父権制への転換は、あつけないほど簡単でした。母権制の時代

は、女性と娘が氏族に残りました。それを男性が氏族に残るように変更しました。それだけのことで母権制が転覆し父権制になった。と書いてあります。

萩谷…母権制の時代は、財産はほとんどなく、子どもが誰の子かは産んだ女性が親だと判るから女系でした。父親の場合は、顔が少し似ているくらいことでしか判断できません。だから母方という認識で母権でした。

中村…卑弥呼の時代は母権ですか。

萩谷…昔、日本は母権で、平安時代くらいまでは男性が女性のもとに通っていました。

平安末期から鎌倉時代に武士の時代になり、武家制度が出来上がり生産性も上がってきました。男性が財産を持ち「これは俺の財産だ」と男性が力をつけてきたのだと思います。

小峯（幹）…日本では、女性の男性への従属は、家長制度の始まりとの考え方が一般的で、時代は中世とするのが主流のようです。

三宅…エンゲルスは、母権から父権へ、そして家族形態が、対偶婚から一夫一婦制へと変化していく新しい社会的な推進力を物質的生産の発達であり、そのことが社会の諸関係の変化をもたら

## ◆ みんなの学習講座



男性への富の集中が母権から父権へ

織り、田畑の耕作の発展によって物質的生産が高まりました。労働力の不足分は、戦争で捕えた敵を奴隷として賄う

した。と書いています。

**小峯（幹）**…富（財産）の増加でいうと、未開の中期には、東半球で動物の飼育、西半球では植物栽培がおこなわれていました。牛一頭、豚一匹ぐらいの財産が何十頭と増えてきたとき、男性が自分の子に継がせたいと、変わってきました。

**三宅**…生産力の高まりが社会発展の原動力です。未開から文明初期のヨーロッパは、家畜の飼育、金属の加工、機

ようになりました。この生産手段と労働力の調達は夫の役目で所有権も夫のものでしたので、男性の地位が高くなつたということです。

**中村**…増えた財産が、母親の娘だけに相続されることに、男性が耐えられなくなり父権制に転換したのです。

**司会**…母権制から父権制への転換は、富財産が、男性に集中してきて力を付けてきた、という理解です。では、レポートの続きをお願いします。

### 母権制の転覆は、

#### 女性の世界的敗北・単婚家族へ

**小峯（幹）**…第三回でも触れましたが、母権制の転覆は、女性の世界的敗北でした。女性は隷属させられ子を生む道具となりました。男性独裁の第一の結果は家父長制度という中間形態を示し、やがて単婚になっていきます。

婚姻関係は、対偶婚から単婚へ移行し、子の父性を確実なものにするため

に女性に単婚が強要されました。それは、父の相続人として子に父の財産を継承することでした。

一夫多妻制は、夫には妻以外にも女奴隷の存在がありました。単婚になり、正妻は厳格な貞操と夫への忠実を守ることを強いられますが、同時に奴隷制が存在し、女奴隷の存在で単婚は妻にとつただけのものでした。

**中村**…男性独裁の第一の結果は家父長制度という中間形態を示し、やがて単婚になりました。とレポートにあります。が、家父長制度はどういうものですか。

**小峯（幹）**…多数の自由人と非自由人とを家長の家父権力のもと家族に組織した制度です。畑地耕作と合法化された奴隷制とが採用され、一軒の屋敷と一緒に住んでいました。

共同の土地所有を共同で耕作し、共同の貯蔵によって衣食をまかない、収穫の余剰を共同で所有する、という制

度です。共同の土地所有と共同の耕作とをともなう家父長制世帯共同体は、母権制家族と個別家族とのあいだの過渡的な役割を演じました。

**小峯(泰)**…婚姻関係は、単婚家族に発展していった、と書いてあります。

現在も、世界には一夫多妻の国があるようですが、宗教的な理由でしょうか。

**三宅**、やはり財産です。

**萩谷**…家制度もありますが、財産分与の社会的制度もあると思います。

**三宅**…財産をどう分配するかが、私有財産制の中で一番大事なことです。

**小峯(泰)**…集団婚は、女性の場合、重大な法律的及び社会的な結果を伴うが、男性は軽微な道徳上の汚点にすぎないと書いてあります。

今でも、夫が不倫したり妾を囲つていても「男の甲斐性だ」なんていいますが、妻だつたら大変です。

**中村**…今も、男性よりも女性に厳しい目があります。ですが、徐々にそれが

通用しなくなつてきていると感じます。言葉だけかも知れませんが、日本もジェンダーフリーな多様な社会を目指しています。

2024年10月、国連の女性差別撤廃委員会で日本の審議がありました。審議では、女性差別に関する様々な報告が日本や各国に出されます。その結果として、日本でも様々な法律が出来てきました。

**萩谷**…でも、まだまだ日本は男性社会です。自民党の女性議員も、男性社会に寄せて発言しています。

**中村**…女性の自民党総裁が誕生した時、高市総裁は「ワークライフバランスを捨て、働いて×4、働いてまいりませう」と挨拶しました。男性以上に働くことの宣言は、まさにそうですね。

**司会**…テキストに戻ります。男性が財産の所有者となり自分の子に継がせることを目的に妻に他の男と性交をさせない、そのために単婚になってきたこ

とは理解できましたか。

**中村**…そこは理解できましたが、家族や国家はなぜできたのですか。

**小峯(幹)**…この本の第四章「ギリシアの氏族」で国家の発生について書かれていますから、その時の学習も参考にして下さい。

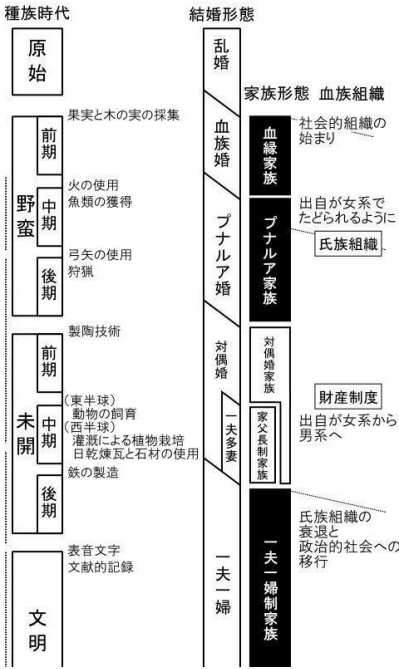
無規律な性交渉の時代は、人間が種を残すため、乱婚は敵を作らないために行われていました。それが、地球上であまり力のない人間が種として生き伸びるために選択した戦略と考えられます。

人間が種を存続するために、集団で生きることにして、その最少が家族で、最大が国家になるのだと思います。

### 単婚家族と一夫一婦制

**司会**…文明期に入り単婚から家父長制家族、一夫多妻制をへて一夫一婦制に移行します。次は中村さんレポートをお願いします。

# ◆ みんなの学習講座



家族形態の発展

感情は育つていなかっただようです。司会：単婚家族についてエンゲルスは、単婚はけっして個人性愛の果実ではなく、それと

中村：一夫一婦制の発展については、ギリシヤ人やローマ人の後のドイツ人に見ることが出来る。ドイツでは、婚姻が神聖化され、夫は一人の妻で満足し女性たちは貞潔の垣で囲まれて生活していた。しかし、貴人や部族の指揮者たちは一夫多妻制がおこなわれていた。母権から父権への移行はこの直前だったと思われ、女性が尊敬され公事にも影響力を持っていた。おそらく、貧困の結果、単婚が当時

また対偶婚から完全に発達していなかったと思われる。その後、単婚のおかげで最大の道徳上の進歩が展開される可能性があたえられ、その進歩とは近代的な個人的性愛のことである。と書かれています。個人的性愛ということが書かれていましたが、人間は単婚になって初めて恋愛感情が育つたのだと、理解しました。群婚や対偶婚では、親子や親族の愛情などはあつたと思いますが、恋愛

は絶対的に無関係であつた。なぜなら婚姻は打算婚だったからであると書いていますが、当時の婚姻関係はどうだったと思いますか。小峯(幹)：資本主義的生産が、世界貿易と工場制手工業を通じて、世界支配に乗り出したときに見出した状態。婚姻締結のこの方式は、資本主義生産に適合、決定的な裂け目を作らざるを得なかつたものは、資本主義的生産でした。それは、すべての物を商品に転化することによって、古来の諸関係を解体、「権利」を売買に「自由」な契約に置き換えた。契約の締結には、行為や財産を自由にでき、相互に平等の権利をもつ、相対する人びとが必要。「自由」な「平等」な人びとをつくりだすこと、資本主義的生産の主要な仕事の一つである。と婚姻の自由について書いてあります。資本主義生産によって「自由」な

「平等」な人を作り出すと書いてあり、わざわざ「」を付けています。

**萩谷**：契約の自由というのが資本主義の大前提です。でも実際には持てるものと持たざる者がいるから、自由ということにはなっていないのです。

**中村**：自由意思により結婚しても経済的基盤の問題があるということです。

例えば、労働契約は双方が自由意思で結んだものとされています。階級的地位の相違や現実の経済的地位は、法律には関係ありません。婚姻についての法律も、経済的基盤の問題があり労働契約と同じことだと思います。

**三宅**：お互いに愛し合って結婚をすることが本来の自由だろうけど、色々な制約や条件があつて結婚が成立していません。

それが「自由」で「平等」な資本主義社会になつて結婚も自由にできるように見えます。しかし、実際には結婚相手の財産や家の問題などがあり、見

せかけの「自由」「平等」と言っているのでしょうか。

**萩谷**：今の日本でも結婚は自由、でも現実には非正規でいつ解雇されるかわからない、収入も不安定というような状態で結婚したいと思つても躊躇してしまふ。ということがあります。

**中村**：恋愛結婚は財産の問題よりも愛情が優先するように思います。でも、結婚紹介では収入の条件は必須だと思います。

**小峯(泰)**：今は離婚率が高くなっています。一般的に夫も妻も働いています。妻はご飯の支度をして子どもの世話をしている時、テレビやゲームをして家事をしない夫に腹が立ち、子どもをつれて親のところに帰り、それが離婚につながる夫婦が結構いると聞きます。

**萩谷**：女性が働かないで専業主婦だった時は、女性は我慢をして家にいる、ということが成り立っていたのでしよう。参政党は「女性は家庭に戻れ」つ

て言っています。女性が自立して働いて子どもを預けて生活していても幸せになつていないのです。

**中村**：女性が社会的に働くようになり結婚します。2人で働いて経済的に何とかなくても、女性の方が圧倒的に家事の負担が多く女性が幸せだと感じられなくて、参政党の支持者になる。ということでしょうか。

**司会**：2月の衆議院選挙で自民党が圧勝し、高市首相は、夫婦は同姓、天皇については男系、という主張をしています。自由な結婚はまだまだですね。

### 資本主義的生産の一掃か

**新たな両性の平等を達成  
司会**：最後になりますが、資本主義的生産が一掃された後の婚姻締結についてレポートして下さい。

**中村**：女性の解放は、全女性が公的産業に復帰することを第一の前提条件とし、社会の経済的単位としての個別家

## ◆ みんなの学習講座

族の属性を除去することが必要。女性が仕事に従事して経済的な自立が出来ることが、女性の解放につながる。第二に結婚締結後でも、双方は互いに平等の権利と義務を持つべき。

この二つが実行されれば、女性は何も望むことはないだろう。きたるべき資本主義的生産の一掃後の性的関係の秩序について、今日われわれが推測できることは（中略）新しい世代が成長してきたときに決定するであろう。と書かれています。

**小峯(泰)**：社会が発展していくと、生産手段の共同所有への移行とともに、個別家族は社会の経済的単位であることをやめる。私的家政は一つの社会的産業に転化する。子どもたちの養育や教育は公的な事項となる。（中略）様にすべての子どもの世話を社会が見る。と書いてあります。

そうなる。「この人は貧乏だから結婚しない」という経済的理由で結婚を

する、しない、ということがなくなり、ます。家同士の結婚の制約や遺産を残す、ということもなくなり、お互いの気持ちで結婚ができるということだと思えます。

**萩谷**：テキストには、単婚が所有関係から発生したために帯びたすべての性格である。（中略）また愛情にもづく婚姻だけが道徳的である。愛着が積極的でなくなるか、または新しい情熱的な恋愛によって駆逐される場合には、離婚が双方にとっても社会にとっても善行となる。と書いてあります。

愛情がなくなったり、新しい愛情の対象が出来たら別れるのが当然である。ということでしょうか。

**三宅**：お互いに経済的に平等であって負担がなくなれば、本来の意味での男女が結ばれる大前提が愛情ということだと思えます。

**中村**：この世代は、その生涯を通じて貨幣（かね）やその他の社会的権勢の

手段で女性の肉体提供を買い取る状態に一度も遭遇したことのない男性たちと、真の愛情以外の何らかの配慮から男性に身をまかせたり、経済的な結果を恐れて恋人に身をまかせることを拒んだりする状態に一度も遭遇したことのない女性たちの世代である。と書かれています。

人間は、単婚になり恋愛感情が備わってきたようです。未来を生きる人たちの男女の関係や経済状態、家族や国家がどうなるのか、今の私たちに理解するのは難しそうです。

**司会**：ありがとうございます。母権制から父権制に社会がなぜ変わったのか、それに伴って家族制度がなぜ、単婚家族へと変化してきたのか、について学んできました。次回は、「第三章 イロクオイ族の氏族」を学習します。

文中に差別用語が出てきますが、原文をそのまま記載しておりますので、ご理解をお願いします。